

# INSPIRE No.21

## イベント

### 第16回ギフトッドサポートミーティング

日時：9月25日（日）

時間：9:00 - 12:00

場所：スクエア荏原 in 品川

費用：1,000円

### 第1回ギフトッド講座101

日時：9月25日（日）

時間：13:00 - 16:00

場所：スクエア荏原 in 品川

定員：10名

テーマ：ギフトッド教育101 - 理論編-

費用：5,000円

ギフトッドに関する2014年の活動の最初の一步として、ギフトッドの正しい情報をより多く発信していきたいと思っています。多くのブログやギフトッドという言葉を使い活動されている団体なども見ても、発信されているのは発達障がいや学習障がいを伴ったギフトッドの子供の情報が多いように思えます。ギフトッドという言葉を用いて、発達障害や学習障害だけを持った生徒達だけを対象にしていたり、ギフトッドを発達障がいと表記し、活動していたりするのは、ギフトッドに関して、間違っただけの情報を流し、結局、ギフトッドの子供達に対して、間違っただけのサポートをしてしまう恐れがあります。

#### 発達に関して

間違い： ギフトッド＝発達障がい

正しい： ギフトッド＝非同期発達（例：知能面、精神面、社会面などで年齢相応の発達をしていない）

**ギフトッドは発達障がいではありません。**

#### 学習障害に関して

間違い：「私の子供はディスレキシアなんです、ギフトッドなのでしょうか。」

正しい：「ディスレキシアは学習障がいです。そして、ギフトッドの中にディスレキシアを持った子供がいる。」**ギフトッドは学習障害ではありません。しかし、ギフトッドの中にはTwice Exceptional（発達障がいや学習障がいを伴ったギフトッド）と呼ばれている子供達があります。**

アメリカではギフトッドと呼ばれるIQが高い子供達や、ある特定の学術分野（数学、芸術、音楽、言語など）で高いレベルの潜在能力を持った子供達があります。そのようなギフトッドの子供達の人口はアメリカの幼稚園から高校までの子供達全体の約6%を占める、およそ300万人と言われていています。公立のGATEプログラムなどは日本でいう特別支援クラスではありません。普通のクラスではできない、よりチャレンジングな高度な授業を受けられます。

なぜギフトッドに光をあてなくてはならないのでしょうか。

#### 理由1 「次世代を創造するクリエイティブなマインドを持つ子供の才能を開花するため」

天才的な才能を持ったギフトッドの子供達があります。しかし、現在、その子供達への教育サポートは限られており、その子供達の才能を開花させる教育が十分に行われていません。

#### 理由2 「ギフトッドの子供達を誤診から守るため」

日本よりギフトッド教育が普及しているアメリカでさえ、ギフトッドの子供達がADHD、双極性障がい、強迫性障がい、又は、アスペルガーと誤診され、社会問題になっています。誤診の最大の理由として、医療関係者、教師、保護者のギフトッドに関する知識の少なさが挙げられます。日本においてもギフトッドという言葉が社会で認知されていないのみならず、発達障がいとして理解される傾向にあります。今後間違っただけの認識を広めない為にもギフトッド教育、またはギフトッドに関する正しい理解が必要です。

今後間違っただけの認識を広めない為にもギフトッド教育、またはギフトッドに関する正しい理解が必要です。

ギフトッドの子供達が持つ、素晴らしい能力を開花させる為に、ギフトッドに関してより幅広い知識を教育関係者、医療関係者、保護者などに提供し、サポートしていきたいと考えています。是非、ワークショップやギフトッド講座にご参加くださいませ。

gifted newsletter no. 21

## 自分がわかっていないことを知る

前々回「議論」についてお話をしました。私のクリニックでは、患者さんの見立てや治療方針が定まらない時には、必ずスタッフ全員で議論をするようにしています。知識や経験では私がクリニック内では勝っています。しかし、議論をするとわかるのですが、私もわかっていないことがたくさんあるのです。人間一人で考えられることなんて、ちっぽけなものです。それは、どんな天才でも言えると思います。誰の本も読まず、誰とも議論をせず、世の中のことを全て知ることはできません。仮に世界中の本を読み、世界中の人と議論をしたとしても、全てを知り、理解することは不可能でしょう。それでも、世の中への理解をちょっとでも深めるために、議論することをお勧めします。

人間は皆「思い込み」で話をしています。私は絶対的な真理を人間が理解できると考えていません。だから、「思い込み」で十分です。というか、人間が「思い込み」なく話すことができるでしょうか。不可能です。だからこそ、お互いの「思い込み」をぶつけ合うことで、お互いの理解が深まるのです。

また、議論は多少の傷付け合いから逃れられません。相手の意見に異を唱えるだけで、十分相手を傷つけるからです。では、相手を傷つけずに議論することは可能でしょうか。それは、不可能です。そうするためには、相手の言い分を「そうだね、そうだね」と同意し続けるしかなくなります。

そこで、大切なのが「相手を尊重すること」なのだと考えます。今日もある学校で、ある小学生のお子さんについての議論を学校の先生方としてきました。その先生のお子さんへの見立てに異議があったため、そのことを穏やかにですが、はっきりお伝えしました。当初は不快な顔をされていましたが、議論を続けることで、なぜそう思っているかが伝わったのか、お別れする時はお互い暖かい気持ちでいられました。自分がわかっていないことを知ることは苦痛ですが、「愛」を持って議論することが大切だと思います。

- すくすくクリニック 新井

## ハーモニカ（母編）

小学生だったあの頃、落ち着きがなくプラス忘れ物が多くて、担任にとっては、好ましい子供ではなかったあの女の子.....。

担任は30代前半の女性。もうすぐ二人目の産前休暇に入る予定だ。神経質で、女の子とは相性最悪！お説教タイムがやけに長く、子供心にイヤだった。

今日の音楽は、ハーモニカのテスト。絶対にハーモニカを忘れてはダメ！

妊娠中のせいか、最近ますますイライラしている先生。今回忘れたらどんなお説教が待っていることか、恐怖政治の2年1組であった。

昭和は、子供が多くて地方さえも45人マックス学級。名簿は、男子あ行～わ行～女子あ行～わ行順。(いまどきの学校は、男女混合名簿あ行～わ行順)

ハーモニカのテストは、女子で一番目のあ行名字が恨めしかった。あ行の男性とは、絶対に結婚しないと心に誓った。プレッシャーでいっぱい、わが子がカワイそうだもん！

男子あ行は無事終了。か行ラスト近藤君の番になったその時、事件が起きた。

近藤君がハーモニカを忘れた！自分の番になりようやくカミングアウトした。

そして、導火線に火をつけてしまい、恐怖のお説教タイムの開始となった。

先生のやり方はいつも汚い！一人を生贄につるし上げ、ネチネチとお説教。

「みんなもこの子みたいにならないように！」との調子でお説教だから、みんなも同調する。つるしあげられた子が悪い、その子を小バカにしても、悪くないような雰囲気クラスに蔓延する。いじめを作り出す主悪の根源は、先生というのはおかしくないか？先生のやり方に納得がいかない女の子であった

うなだれて立たされっぱなしで、今にも泣きそうな近藤くん。みんなの顔も恐怖で引きつっている。先生のお説教が始まったその瞬間、

「近藤君、私のハーモニカを貸すよ使って！」

近藤君の顔がペア～ッと明るくなった。みんなもホッとしたような顔、それよりも一番ビックリしたのは、先生の顔だったことを女の子は見逃さなかった。

「ゲッ、こんなヤツにハーモニカを貸せる子なんているの？」そんな顔してた。

女の子の一言で、空気が変わり先生の立場が危うくなった。このままお説教を続けたら、自分が悪者になりクラス運営が危ない！ここは女の子の好意を受け入れて、近藤君の対処をしたほうが得策だと、先生は思ったに違いない。

「よおくお礼を言って、よおくハーモニカを拭いて返すですよ(作り笑い)。」  
急にいい先生ぶるなんて、この先生って底が浅くて本当にイヤらしい人間だ！

この女の子とは接点がまるでない近藤君。彼だって仲良しがいるはずなのに、なぜ一番に男子が助けない？先生が怖い？こんな時こそ友達を助けようと思わないの？優しさのカケラもない男子ども、男子って本当に弱くて大嫌いだ！

時を経て、この女の子が男の子を産んだ。この子は、女の子とは間逆のタイプで、ボーッとしているのび太みたいな男の子。忘れ物が多いのはソックリで、似て欲しくない所は母子でよく似ているようだ。異性であり似ていないと思っていたのに、この母子は学校での体験がジワリと似てくるのであった。

ただし、それに気がつくのは男の子が中学生になってからの話.....